



開倫ユネスコ協会
NewsLetter

第124号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915

発行者 林 明夫 2018年11月15日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

2018年度 平和の鐘を鳴らそう運動

国連総会は西暦2000年を「平和の文化国際年」と決めました。ユネスコは、この「平和の文化国際年」を推進する中心的役割を担っております。日本ユネスコ協会連盟は、国際年の意義を広く伝え、人々の心の中にある“平和の祈りと願い”を大きな力へと結集していくために、「わたしの平和宣言」と「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう運動」を継続して実施しております。

開倫ユネスコ協会では、8月15日(水)「平和の鐘を鳴らそう運動」を実施致しました。当日約800名(学生720名・大人80名)の参加者があり、「わたしの平和宣言」を読み上げ、思い思いに音を鳴らしました。

足利市においては、小曾根町の永宝寺では、高木堅持住職から「平和」の大切さについての講話をお聞きしたあと、約30名の参加者は平和を祈りながら鐘をつきました。また、足利市家富町の鑿阿寺では、当協会の名誉顧問である参議院議員 上野通子様(通称)の代理として、秘書様より平和の大切さが語られました。その後約24名の参加者は、平和を祈りながら鎌倉時代創建の歴史ある鐘をつきました。



鐘楼の前



鐘をつき平和を祈る参加者



永宝寺 高木堅持住職



鐘をつく参加者



ばんな寺 山越忍隆住職



鐘楼の前

関東ブロックユネスコ活動研究会 in 茨城

2018年9月8日(土)～9日(日)、茨城県立県民文化センターにおいて『関東ブロックユネスコ活動研究会 in 茨城』が開催されました。

オープニングイベントとして、ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」のからくり人形芝居が保存会の人々によって披露されました。

開会式のセレモニーのあと基調講演が行われました。テーマは「江戸時代の教育と現代『弘道館を世界遺産に』の運動に触れて」です。講師は茨城大学名誉教授の鈴木暎一先生でした。江戸時代の教育は、民間主導で各々の地域の実情に即して、主体的・積極的に私塾が開設され、武士も庶民も学んでいました。水戸藩では、19世紀半ば、藩士とその子弟が学ぶ弘道館を開館し、藩校としては全国一を誇る敷地に学問と武芸の両方を重視した施設を整えました。

その後は、4つの分科会（「ユネスコスクールと民間ユネスコ活動の役割」「世界遺産・未来遺産と民間ユネスコ活動」「平和活動・世界寺子屋運動と国際交流」「ユネスコ活動の活性化と情報化・会員増に向けて」）に分かれそれぞれの提案者が発表し、いろいろと活発な質疑が行われた。

続いて、日本ユネスコ国内委員会 高尾初江（開倫ユネスコ協会事務局長）委員の報告がありました。

閉会式では、来年2019年の関東ブロックユネスコ活動研究会の開催を予定している埼玉県内のユネスコ協会のみなさんが大段幕を持ってステージに上がり、ごあいさつをして終了となりました。



ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」



茨城大学名誉教授の鈴木暎一先生



開会式



日本ユネスコ国内委員会
高尾初江委員（開倫ユネスコ協会事務局長）



分科会の様子



来年度は埼玉県で開催予定